

## 自然保護ボランティア活動

### *A work on a Conserving of Nature Maintenance Volunteer*

岩崎行伸

自然を守り、自然を育む仕事やボランティア活動への関心が最近ますます高まりつつある。

レンジャーとは、もともとアメリカ合衆国やカナダ等の国立公園の職員が、ナショナルパーク・レンジャーと呼ばれていることから、日本でも国立公園の管理にあたる環境庁国立公園管理官のことを呼んでいる。他には、(財)日本野鳥の会の同会が野鳥を保護し、自然教育を進めている「自然観察の森」に勤務の職員である。

都市化が進み、日常の暮らしの中で人と自然の関わりが少なくなる一方、余暇時間が増大していること等から、自然との触れ合いを求める声はますます大きくなっている。

都市の近くでは、身近な自然がどんどん少なくなっている。子どもの頃、カブトムシやセミを採った雑木林、魚を釣った池・沼や川、バッタを追った草原、田んぼや畑。家が建ったり、道路ができたり、コンクリートでふさがれたり、それらの自然は、何時の間にかすっかり減ってしまった。そのような中から、「ヒトは自然なしで暮らすことはできない。自然を守り、育てながら生きて行かなければならない」。このままでは自然の価値を知らない大人が増えるばかりである。自然保護ができないのではないかという声が高まってきた。

鳥の好きなヒトのためには野鳥を観察する探鳥会、植物を知りたいヒトのための植物観察会、地質や化石を調べる行事、ホテルの観察会など観察するだけでも多くの種類がある。観察ばかりではなく、木を植えたり、育てたりする作業を実際に体験したり、炭を焼いたり草木染めをする行事も行う。



図1. 清流とサクラ満開 (瀬戸川/藤枝)

自然観察の森は身近な自然を生かし、ありのままの自然と触れ合うことを基本としているが、場合によっては、ヒトが自然環境に手を加える。夏は草原の観察路が草に覆われてしまう。秋には水路が落ち葉で詰まるので、草刈りや川さらいなどの手入れは欠かすことができない。また、生き物が生活し易い環境作りも行う。木を育てたい場所では草刈りをするが、草を刈るときに貴重な草花や木の苗を傷つけないように細心の注意が必要である。森の中に巧ち木を集めてキノコが生えたり、虫が集まる様子を観察できる場所を作ったり、積み上げた丸太に穴を開けてハチの家を作るなど自然の魅力作りもしたい。



図2. 富士山と清水の街並 (清水/馬走)



図3. 南アルプスの山々 (清水/馬走)

炎天下の草刈りや台風の中の見回り等厳しい仕事も多いが、環境管理の作業は、自然観察の森・林を支える裏方の大事な仕事がある。

行事を開いたり、展示を作るには基礎的なデータが必要である。何時、何処で、どんな生き物が見られるかが分からなければならない。昆虫・植物・鳥類等生物のリストを作るため「生物基礎調査」をする。日本で記録された鳥類は550種くらいで比較的少なく目立つので、識別がきちんとできれば種類のリストアップはさほど難しくない。けれども、昆虫や植物のように種類の多いものや、識別の難しいものは調査が完了するまで何年もかかる。

生物リストだけでは展示物を作ったり行事を実施するデータとしては不足である。どんな観察ポイントがあって、どのように解説をすることが来訪者の興味を引くか、行事の時には、どのようなプログラムを組むと効果があるか、といったデータが蓄積されていなくてはならない。こういったデータを取る調査を「観察資源調査」という。

環境管理の目的の一つに、生きものの棲みやすい環境を整えること、管理作業の結果、本当に生きものが増えているかが分からなければ管理する意味がない。環境影響調査は、管理作業の結果生きものがどのような影響を受けたかを調べるものである。

## 参考文献

- 1) 自然保護レンジャー研究会編(1997):環境庁自然保護局・日本野鳥の会・日本自然保護協会

## 添付資料

- 図1. 静岡市清水区(清流/興津川中流域)
- 図2. 富士山と旧清水市街並(世界文化遺産登録準備)
- 図3. 南アルプスの山々(国立公園)

---

自然 & 生きものウォッチング: 会員・日本野鳥の会・自然観察研究会・昆虫写真研究会